



「福澤育林友の会」ニュース

第24号 発行日2013年8月1日

福澤育林友の会
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190
<http://www.f-ikurin.jp>



育林による環境教育

- 持続可能な世界をめざして -

福澤育林友の会

会長 渡部 直樹

(慶應義塾常任理事)



この度、笠原忠前会長の後任として福澤育林友の会・会長に就任しました渡部です。福澤育林友の会会員の皆様には、引き続き変わらぬご協力・ご支援の程、お願い申し上げます。

慶應義塾は「環境」を対処すべき重要な問題の1つとして位置付け、2012年7月6日に策定された「慶應義塾環境理念」では、以下のように宣言しています。

慶應義塾は教育・研究・医療における活動において、地球環境の保全と持続可能な循環型社会の発展に貢献します。また、教職員、塾生のひとりひとりが、地球生態系の一員であることの自覚と責任を持って、環境改善活動を推進します。

慶應義塾は、160ヘクタールにも及ぶ山林を学校林としていますが、そこでの活動はまさに、育林活動を通じた環境教育に他なりません。活動に参加した塾生は、育林活動を通じ地球生態系の一員である自覚を持ち、これを持続させるには何をしなければならないのか、そのための解決策とは何かを自ら探究することが期待されています。現在行われている具体的な活動は、一貫教育校の児童・生徒による植樹・育林活動(幼稚舎の森、志木の森等)があり、義塾の環境教育の基礎となっています。その他に、南三陸町の学校林で塾生・教員が行っている「南三陸支援プロジェクト」が挙げられます。このプロジェクトでは、被災された方々の雇用支援を視野に入れ、慶應の森の間伐材を使ったグッズ作りも行われ、震災に対する復興支援活動となっています。さらに、新しい展開として、林業三田会の皆様のご支援で総合政策学部・環境情報学部において、三井物産寄付講座「フォレスト・プロダクツ論」が今年から開設されることになりました。これは、産業面から新しい林業のあり方を考えるもので、慶應義塾における環境教育に新しい視点を与えてくれると期待しています。

近年の環境問題から私たちが学んだのは、地球環境の持続可能性は一遍に解決されず、試行錯誤の結果得られるということでした。この点からも育林活動の役割は、大きいものがあると考えます。

畠山重篤氏の講演を聴いて

- 2013年6月22日(土)「第12回森を愛する人々の集い」にて -

大内 莊久

私はカキが大好きです。そして永く「尾瀬」とその周辺の森の管理に携わってきた者の一人です。そんな私にとって、今回の講演会のテーマ、講師は最高で、この機会は絶対はずすまいと楽しみにして、久しぶりに三田の丘にやってきた。

畠山さんについては、メディアを通じて「海の幸は森なくして成り立たない」というその活動の一端は知っていたが、広葉樹とカキがこんなにも仲良しとは知らなかった。

カキはエサが不要で、海水と淡水がまじりあった低塩分の汽水域の植物プランクトンを食べて成長する。カキ養殖はプランクトン泥棒である(畠山談)。落葉広葉樹林の腐葉土に含まれるフルボ酸“古母さん”(畠山談)と地中に含まれる鉄が融合して、フルボ酸鉄になり、地下水となって川に流れ込む。汽水域に育つカキなどの魚介は、このフルボ酸鉄を含む植物プランクトンを食べて成長するというのを知って、まこと目からウロコであった。

鉄と言えば、鉄道、鉄塔などを私は連想し、鉄分が不足するとヒトの健康に影響があることは知っている。しかし、これが魚介と密接につながっているとは・・・

さらに、私が感激したのは、畠山さんの話し相手になった幼稚舎3年の生徒たち4名(後で聞くと担任の先生と生川、甘露寺、峰岸、森君)だった。森林の

話を熱心に聴いていて、講演が宮澤賢治の話題になり、賢治の農芸化学の専門家としての人となりの説明した後、彼の著作を生徒に尋ねたところ「銀河鉄道の夜」や「風の又三郎」などをすらすらと答えるなどいくつかの質問に的確に答えていた。その著作の一つ「グスコブドリの伝説」に話が及び、「田のイネの生育が悪くなると山の赤土(鉄分を含む)を客土する」ことを指導したことを話し、最後に「宮澤賢治イーハトーブ賞」受賞(2004年)が報告されたのだが、4名の幼稚舎生がこの講演の聴衆としてのみならず、講師の重要なパートナーとして活躍してくれたことは驚きであり感激であった。

畠山さんの「森は海の恋人運動」がきっかけとなり、森と川と海のつながりを総合的に解明するためフィールド科学教育研究センター(京都大学)が設立され、林学、農学、水産学などを統合した「森里海連環学」という新しい学問分野が誕生したのだが、森・川・海のかかわりが科学的に解明されても、人々に自然を大切にする心が育たなければ自然は復活しない、という点は印象深かった。次世代を担う日本の青少年がこの点に関心をもって欲しい。

アムール川や長江などの大河の水が沿岸漁業に及ぼす影響とそれがもたらす国際関係など、グローバルな視野からも森・川・海の連鎖をさらに研究して、国際的な運動に広げてゆくことも必要であると痛感した。



慶應義塾・南三陸プロジェクト立ち上げと今後

経済学部 長 沖 暁子

2011年3月11日、呆然としながらニュースを見ていて、以前鳥居塾長が植林に訪れた森が宮城県にあったことを思い出しました。調べてみると、津波で大きな被害を受けた南三陸町に志津川の森がありました。何人かの教員で「慶應義塾・南三陸支援プロジェクト(現在は支援を外す)」を立ち上げ、教職員・学生からスタッフを募集し、その過程で志木高等学校が町立自然環境活用センターで研修を行っていたことも知りました。南三陸町と慶應義塾は本当に縁があったのです。

2011年以降、夏休み、三田祭期間中、春休みと毎年支援活動を行ない、延べ600名を超える塾生・教職員が南三陸町を訪れました。そして、今年の夏も6期約120名が活動します。

2011年夏は瓦礫の撤去など復旧のための活動が中心でしたが、秋からは地元の南三陸森林組合の協力を得て、志津川の森での活動も取り入れてきました。2011年秋は枝打ち、春は枝打ちのやり直し(秋の枝打ちが出来なかったため)、夏には蔦切り、そして2012年秋からは森の歩道作りや雑木林管理も行っています。

このように活動は徐々に森での活動にシフトしてきました。それは、復旧から復興へ向かう南三陸町において、慶應の森を整備することによって、海の生態系を守り、教育、研究、観光などに生かし、復興に少しでも寄与することが私たちにできる支援活動だと考えてきたからです。これらの活動を継続すること、そして日吉の森と志津川の森を繋げる環境講座を開設するのが今後の私の目標となっています。



2102 年秋



2013 年 5 月
(南三陸町の小学生と一緒に慶應の森に！)



2013 年春



なぜ慶應の森なのか

商学部3年 福田 晶

2011年夏の南三陸町での被災地ボランティアを経験した後、最も苦慮した事は今後どのような形で南三陸町の復興に貢献できるかという事でした。塾生だからこそ出来て、一過性ではなく継続性があり微力ながらも南三陸町の復興への一助を担える活動はないかと思慮した結果、行き着いた先が南三陸町戸倉にある慶應の森でした。

慶應の森を起点に学習、観光、研究などを行えるしっかりとした体系を作り、より多くの塾員の方々や塾生たちに足を運んでもらえるようになれば、一つの長期的な復興支援になるのではないかと考えたからです。しかしその体系づくりは話が大きく、塾生の力ではどうにかなる問題ではないため、そのきっかけ作りを模索し活動していこうと決め、実行してきました。

コンクリートジャングルで育ち、自然に触れる機会が全くなかった自分にとって南三陸町や慶應の森での自然と向き合う活動は、学びや考えさせられる事も多く、その経験は大変貴重なものでした。慶應義塾・南三陸プロジェクトの参加者の塾生には学舎での勉強だけでなく、自然の中での学びを体験して欲しいと願っております。事実、参加者の学生たちは3泊4日の活動が終わると顔つきが変わって帰っていくので、きっと慶應の森での活動などは自分と同様に彼らの糧になっているのだと信じています。

今後も上記の理念を忘れず、塾生なりに出来る事を模索して頑張っていきたいと思います。

平成 25 年度「研修旅行」

2013 年 9 月 6 日(金) ~ 8 日(日) 2 泊 3 日

一昨年、福澤育林友の会発足 10 年を記念し「慶應義塾清水の森」のある紀州和歌山を旅する計画をしましたが、直前に紀伊半島を襲った豪雨災害により中止を余儀なくされました。その災害から 2 年が経過、主要な道路もほぼ復旧したことから、今年改めてこの企画を復活し、皆様方にご案内する事に致しました。

旅行先は、温泉地として有名な白浜から、串本、那智、龍神温泉、高野山、清水の森と、和歌山県をほぼ縦断する盛り沢山の研修旅行です。多少ハードなスケジュールですが、1 泊 2 日での参加を希望される方にも十分堪能して頂けるスケジュールを組んでおります。

今回の研修旅行は、紀州の豊かな山・川・海をご覧いただくと共に、日本書紀にも登場する自然崇拜の地であった熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)へと通じる参詣道を体感していただく旅です。

初日は、黒潮流れる太平洋に三方を囲まれた白浜に集合していただき、本州最南にある串本に宿泊です。

2 日目は、「日本の滝 100 選」の一つにも選定された落差 133m の日本一の滝を見学、「苔生した色の古道」とも言われ、熊野古道の中でも非常に保存状態のよい「大門坂」、熊野街道の要衝にあたり、熊野詣の人々が通った野中の清水から継桜王子や一方杉の周辺を散策していただき、「日本三美人の湯」で名高い龍神温泉で一日の疲れを癒していただきます。

3 日目は、1200 年前に弘法大師(空海)によって開かれた真言密教の修行道場で、世界文化遺産にも登録されている高野山を散策し、名物の精進料理をご賞味いただいた後に、「清水の森」を見学し、静かな山中で一時的涼をとっていただく予定です。

ご参加の方は、石畳の山道を歩きますので、滑らない靴と簡単な雨具をご持参下さい。

*** 定員に達しましたので募集は終了しております ***



平成 24 年度 福澤育林友の会 会計報告

会員：180 名 (平成 25 年 6 月 13 日現在)

| 平成 24 年度 | 収 入 | 支 出 | 摘 要 | |
|----------|-----------|-----------|-------------------|--|
| 前年度繰越金 | 1,202,110 | | | 会費の口座振替について 平成 25 年度会費の口座振替予定日は平成 25 年 9 月 24 日(火)を予定しています。 |
| 会費 | 20,000 | | H23 年度会費 (3 名分) | |
| " | 1,615,000 | | H24 年度会費 (180 名分) | |
| 寄附金 | 8,000 | | | |
| 事業参加費 | 940,000 | | シボ・ジウム・研修旅行 | |
| 利息 | 288 | | 普通預金利息 | |
| 通信費 | | 76,600 | ニュース・案内等発送通信費 | |
| 事業経費 | | 1,070,549 | シボ・ジウム・研修旅行 | |
| 手数料 | | 27,150 | 会費引落サービス手数料 | |
| 当年度収支 | 2,583,288 | 1,174,299 | | |
| 次年度繰越金 | 2,611,099 | | | |